

7-2. 景観基本エリア毎の景観形成の方向

各景観基本エリアの景観形成の方向を示すと次のようになります。

【エリアの特性】

<自然>

淀川の流れを背景に昔からの田園風景があるまち

淀川の流れを背景とした広大な淀川河川公園は、多くの市民の憩いの場となっています。

国道1号（京阪国道）沿いに平行して木屋より淀川の水を取り入れ市内の用水を供給している二十箇水路より各水路へ用水幹線水路が流れています。水路沿いには、桜並木があり、春には桜の花が咲き乱れています。このエリアに位置する寝屋川導水路、寝屋川第一、第三水路は、貴重な自然空間となっています。

<歴史・文化>

古い歴史の中で育まれた旧集落があるまち

4～5世紀の淀川は流れ放題で、仁徳天皇は、2カ所の切れ目（強頸絶間と^{こわくびたえま} 杉子絶間^{ころものこたえま}）をつなぐ難工事を人柱になった武蔵人強頸^{こわくび}と人柱にならずに絶間を構築した河内人茨田連^{まんだのわらじ}杉子^{ころものこ}に命じ、日本で最初といわれる茨田堤を完成したと伝えられています。

このような古い歴史がある淀川の堤防上には旧京街道が通っていました。また、このエリアには、二十箇水路の樋のある村の氏神として宝磨年間に造られ、境内には保存樹^{けやき}の榉の高木が茂り、静閑さを漂わせる木屋の鞆呂岐神社などがあります。

<人工・都市>

幹線道路に囲まれた流通業務施設が多いまち

このエリアの東、西、南には、それぞれ京都守口線、国道1号（京阪国道）、茨木寝屋川線の幹線道路が走り、交通の利便性が高く、多くの物流関連会社がある中で、木屋元町公園は、貴重な緑地空間を提供しています。また、池田北町、豊里町には、民間の高層住宅が並んでいます。

景観整備の方向

淀川周辺の古代の歴史と面影を伝えるまち

景観形成の基本目標

<自然>

- 京都・大阪を繋ぐ淀川、平行して流れる幹線水路、淀川から流入している寝屋川導水路、中小河川の魚の生息環境の調査・研究施設の大阪府立水生生物センター養魚池などの水際景観を活かすまち
- 寝屋川導水路と南北に二十箇水路が交差して流れ、南に寝屋川第三水路、北の旧集落地付近を寝屋川第一水路、さらに北側に支線水路が流れるなど自然空間と水際景観を活かしたまち

景観形成に向けた誘導基本方針

- 自然景観に水を活かす。
 - ・ 淀川と一体となった沿川の豊かな自然の活用
 - ・ 淀川堤防敷からの丘陵の眺望の確保
 - ・ 幹線水路沿いの修景、桜並木の保全
 - ・ 寝屋川導水路沿川の緑化の推進
 - ・ 二十箇水路沿や木屋元町公園の緑の活用
 - ・ 水路などでの親水空間の充実

<歴史・文化>

- 古代からの淀川の水との戦いの歴史を偲び、中世の京都、大阪を結ぶ旧京街道のロマンの歴史景観にふれあうまち
 - ・ 中世の荘園の名を残す郡、三井、田井、木屋、石津、太間、平池あたり一帯の水利の守護神として祀られている鞆呂岐神社、古くは淀川の木材の集散地であった木屋の古いまちなみなど歴史的景観を守るまち

- 歴史の薫りを演出する。
 - ・ 太間天満宮などの社寺や茨田堤、旧集落地などの歴史的資源の活用
 - ・ 旧京街道の再現や散策路としての整備の推進
 - ・ 鞆呂岐神社の社寺、史跡となっている寄進の鳥居、保存樹（楠木2本）がある社寺林、木屋の古いまちなみ、この北側に広がる田園風景などの活用

<人工・都市>

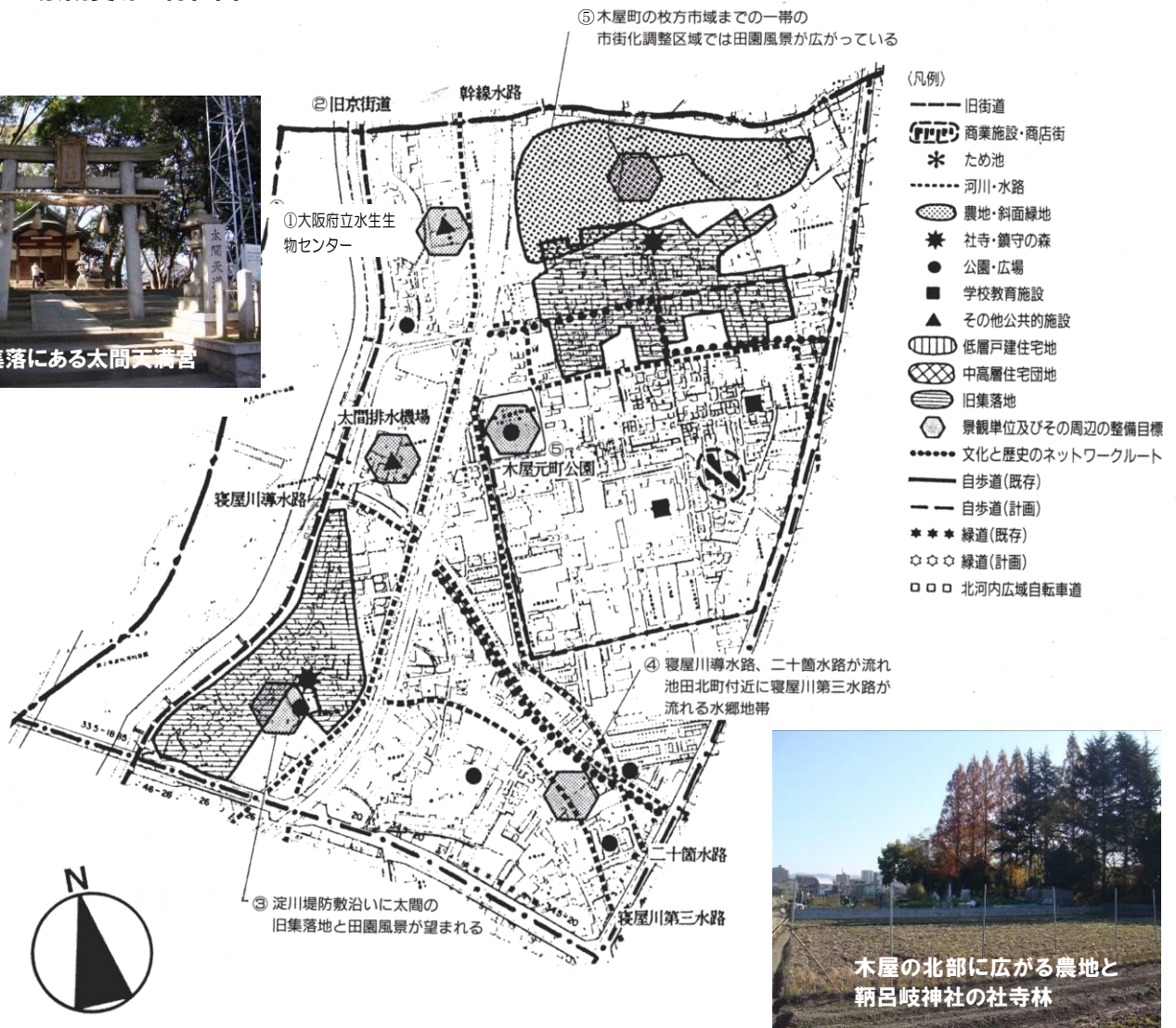
- 淀川河川公園に広がる美しく広大な芝生と幹線道路を活かした活力あるまち
- 幹線道路と調和のとれたシティゲートに相應しいまち

- 調和のとれたシティゲートに相應しい景観を整える。
 - ・ 淀川河川公園に広がる大規模緑地、太間公園の植栽の緑の活用
 - ・ 国道1号（京阪国道）、京都守口線、茨木寝屋川線の沿道及び交差部における景観の演出
 - ・ 流通業務施設などの建物に緑が映える演出

景観資源と特性図



太間の旧集落にある太間天満宮



木屋の北部に広がる農地と
鞆呂岐神社の社寺林

■ 景観基本単位

名称	<旧集落地>太間町	<旧集落地>木屋
景観整備の目標	○旧京街道沿いの歴史景観を守り育てる。 ・旧京街道沿いの旧集落のたたずまい、社寺などの歴史的景観及び公園の美しい芝生・植栽の緑、幹線水路の桜並木などの緑を住宅のまちに活かす。	○府道沿いの古いまちなみ、北側に広がる田園風景を守り、育てる。 ・鞆呂岐神社、本信寺などの社寺周辺に建ち並ぶ古いまちなみを大切に、活かす。
活用する景観資源	○歴史の散策路として旧京街道（淀川堤防上）を活用 ○旧集落のたたずまい、社寺の緑の活用 ○公園の植栽の緑、幹線水路沿いの桜並木の活用 ○国道1号（京阪国道）や幹線水路沿いの緑の活用	○歴史に親しめる散策路として活用 ○木屋交野線などを歩行者にやさしい道路として活用 ○旧家、古いまちなみの活用 ○田園風景の活用 ○社寺林の活用 ○支線水路の活用